

株式会社フェリクス

住 所：福岡県久留米市百年公園1番1号

代 表 者：代表取締役 國信 健一郎

事 業 内 容：フェルトーシス・酸化脂質をターゲットとした医薬品等の研究開発

H P：https://feliqs.co.jp/



Q1:創業背景

当社は、九州大学大学院薬学研究院の研究成果をもとに創業した大学発スタートアップです。私は、九州大学大学院薬学府修了後に医療機器・医薬品メーカーのニプロ株式会社に入社し、国内外での医薬品開発を通じて、幅広い経験をすることができました。その経験を最大限活かせる形で、かつ創業のポテンシャルがある福岡の地で創業することを決めました。

我々は、物質特許が切れた化合物を使用して医薬品開発を行うドラッグリポジショニング手法によって、希少疾患を対象に開発を行っています。先行パイプラインは「未熟児網膜症」という小児希少疾患の治療薬で、米国では毎年出生する約2万人の超早産児で発症することの多い病気です。グローバルで医薬品開発をうまく進めるために、当社のCapabilityと実績を理解してもらうことが必要と考え、本手法×希少疾患での開発を進めています。

Q2:医薬品開発で重要なこと

医薬品開発は、サイエンスとビジネスのバランスが重要だと考えています。医薬品開発のプロセスにおいて、基礎研究からゴールまでの各段階で、サイエンスだけではなく、ものづくりや臨床開発、薬事や知財等さまざまなノウハウが必要になります。前職での幅広い経験が今に生きています。

ビジネスの観点では、我々はリスクマネーによって事業を進めるため、いかにリスクを下げて事業を行うかということを考えています。対象疾患において、ターゲットが本当に正しいのか、またその寄与は大きいのか、GMPに準拠した基準でモノは作れるのか、保険償還はどのように行われるのか、など、潜在リスクを明確にすることが重要です。事業を推進する上で、足りない機能を社外から取り入れることが大事だと考えています。創業当初は、私と共同創業者である山田教授の2人でしたが、2年間かけて臨床開発、製造、薬事、法律等に精通している専門家をメンバーに迎えることで、臨床試験や実用化おけるリスクの低減に取り組んでいます。

Q3:知財戦略のポイント

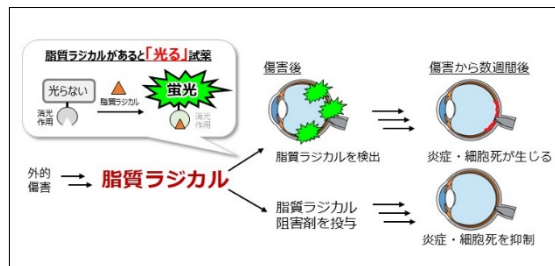
創業前、特許は既に別領域の疾患の範囲で出願されていました。そこで、我々が開発を目指す眼科領域の疾患がカバーされるような範囲に変えられる文言で権利化を行いました。最初の出願では、対象疾患をSpecificに取っており、これは権利化を確実に行うという意味では良い一方で、事業を守るとい意味では裾野が広い出願内容にすることが重要であったと思います。対象疾患を絞って知財の権利化を進めても、最終的な臨床試験に進む際、実際に開発を行う疾患かどうかは分かりません。日々、新しい薬が開発され、疾患領域の治療ランドスケープが変化することも考えられ、そのときに方向転換ができるような出願内容にしておくことも重要と考えています。当社は、特許の権利化にあたり、医薬品業界に精通した弁理士の方に支援していただきました。知財は研究開発全体に影響を与え、将来の企業価値を決定する重要な要素であるため、知財専門家の伴走は必須だと思います。

そして、特許は資金調達においても重要な交渉材料になります。当社は福岡県(福岡バイオコミュニティ)の助成事業を活用して特許を出願し、その出願を基に資金調達をすることができました。

Q4:今後の展望

当初から世界最大の医薬品市場である米国を目指して事業計画を立案しました。日本のサイエンスを米国で実用化して事業価値を最大化するとともに日本で実用化することが理想的なシナリオです。EXITの方向性として、M&Aを目標にしていますが、IPOも視野に置いて事業を進めています。

スタートアップの創業・経営はリスクが高いものです。だからこそうまくいった時のリターンが大きくなるべきで、そのためにも知財の重要性を理解してもらいたいと思います。成功事例を福岡から増やしたいという想いで日々、奮闘しています。



10年後の目指す姿

福岡が創業の地に加わるために、出口志向の研究開発をリードできる人材の育成に貢献していきたい。